

竹鼻別院輪番・第11組本來寺 里雄 敬意

お盆が過ぎ、お彼岸が近づくにつれて亡き人を縁としてお参りする機会が多いのではないかと思います。お参りするときに私が何をすることが亡き人を敬うことになるのだろうか、ということを考えさせられるのではないかと思います。そのようなときに思い起こすあるご住職から教えていただいたお話を私は大切にしています。

あるご門徒の女性がお母さんを亡くされたときのお話です。その女性は、母が亡くなってから、私が一体何をすることが母を敬い大切にすることになるのだろうか、また、母が安心して喜ぶのだろうか、そのようなことを考えさせられたということでした。ある日、女性の誕生日に娘さんが手紙をくれたそうです。その手紙には、「お母さん、生んでくれてありがとう。自分の人生を大切に生きていきます。」と書かれていました。女性は娘さんの言葉が母親として本当に嬉しかったと。その娘さんの言葉にどんな状況にあっても子どもが今ここに私があることを感謝し、自分自身の人生を引き受け大切に丁寧に生きることが親の願い、喜びなんだと教えられた気がしますと言われたそうです。

現在はコロナウイルス感染症対策・予防で家族、有縁の方々がそろってお参りすることが難しい状況にあります。しかしながらそれぞれお一人おひとりがお参りすることは可能です。まずお参りしましょう。

またお参りする中で、私にかけられた亡き人のお心、願いを聞いていくことが、亡き人を敬い大切にしていくことになるのではないかと思います。